

2005.03.15
堀川浄化事業を事例にした
住民参加型VE会議に関する一考察

名古屋工業大学 都市社会工学科
伊藤竜志
和久昭正

1

研究の概要

- 1) 昨今、
行政と住民が協働して社会資本の整備を行うことの
必要性が高まっている。
- 2) しかし、現状は
協働で事業策定を行う場合、対象事項への関与の
違いや、参加者が多彩である等の理由から、意見の
対立や発散による議論の停滞が発生しやすい。
- 3) 解決策として、
住民が参加する会議に関し、より効率的に合意形成
を図る手法を開発することを旨とした。



2

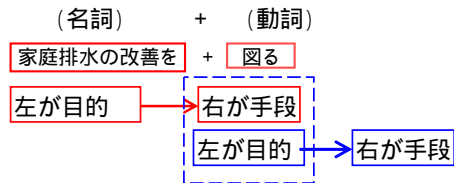
VE (Value Engineering) とは、

- 1) 日本語訳: 価値工学
価値向上の管理手法である。
業種に関係なく、世の中の「モノ・コト」すべ
てに適用できる。
- 2) 定義
最低のライフサイクルコストで必要な機能を
確実に達成するために、
製品やサービスの機能的研究に注ぐ組織
的な努力である。

3

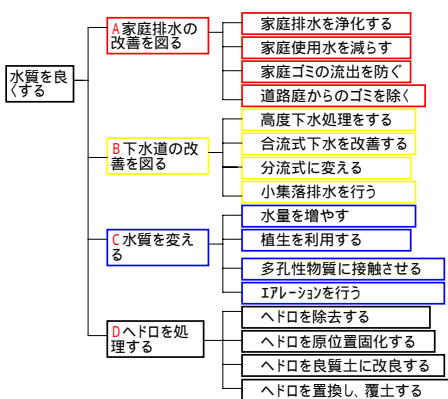
VE機能系統図の原則

1. ブレインストーミングにより意見を出す(20~50)。
2. 出た意見を「名詞+動詞」の形にまとめる。
3. 左端を大目的とし、以下、目的 手段の形に並べる。
4. 機能系統図の2~3列目付近に検討課題が集中する。



4

VE機能系統図 - 堀川の水質を良くする -



5

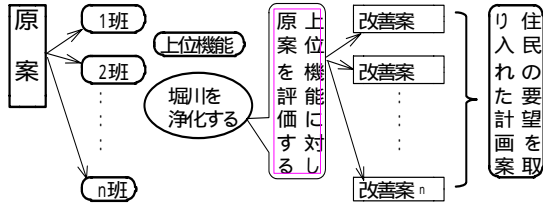
製造業VE会議と住民参加型VE会議

	製造業VE会議	住民参加型VE会議
専門性	その分野の専門家集団	住民は「地域の専門家」と位置づける
事例に関する総合的知識	参加者全員が同一レベルの知識を共有する。	参加する住民により、保有する知識の格差が大きい
参加人数	通常は5~7人	不特定多数
分野	関連分野の集まり	異分野の集まり
参加者	確定	多彩
VEの理解度	高い	低い
事業への関心	高い	低~高まで様々

6

住民参加型VE会議のフローチャート

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
原案提示	5～6人の班分け	要望点機能系統図	原案を評価	改善案の作成	各班の発表	総合評価



7

住民参加型VE会議のフローチャート(1)

1) 標準的なVE会議:

検討内容に関するVE機能系統図を作成 それを評価・改善する。

2) 住民参加型VE会議:

(1) **原案**(専門家が作成)を住民全体に提示 → 議論の発散を防ぐ

(2) 参加者を5～7人の**小グループ**に班分けする。

(3) 各班にて原案を基に「住民 = 地域の専門家」が要望点機能系統図を作成する。

8

住民参加型VE会議のフローチャート(2)

(4) 原案とこの機能系統図を対比 → 上位機能を対象として検討する。

(5) (以上の議論をふまえて) **改善策**を検討する。

(6) 各班毎に**改善案を発表** → 意見交換する。

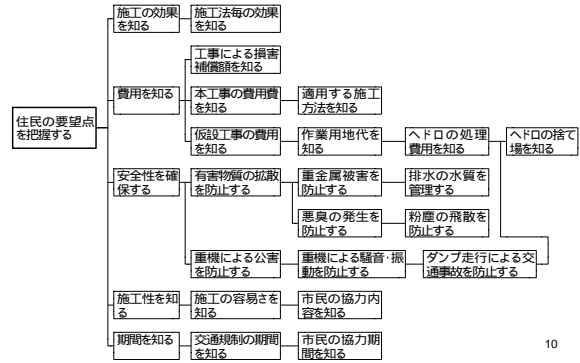
(7) 後にこれらを**総合評価**する。

「**住民の要望を取り入れた計画法**」としてまとめる。

↑
住民の要望や思いを原案に反映することが出来る

9

住民の要望点機能系統図



10

少人数グループのメリット

- 1) 参加者を**5～7人に分ける**(VE会議の適正人数)
- 2) **発言のし易さ**、スムーズな議論の進行が期待できる。
数十人から100人を越える住民説明会では、自分の意見を述べることは相当困難。
- 3) 少人数の会議では、少なくとも1回以上、発言の機会がある。**事業に対し意見を述べる事が出来る。**
- 4) 意見が事業に反映されれば、**住民満足が得られる。**
また、事業に対する**愛着**も湧く。
- 5) 他グループへの**競争意識を促進**させる。
→ よりよい案を作成する上で有効。

11

まとめと課題

1. まとめ

社会資本施設の整備において、住民合意形成を図る手法として、住民参加型VE会議を提案した。

2. 課題

これからの社会資本施設の整備は、市民の意見をどのように取り入れるかが重要である。

本手法を実務に適用し、手法の洗練化を図っていく必要がある。

以上

12